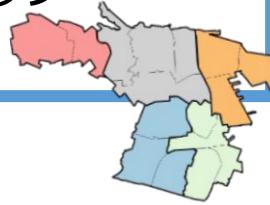




立川市公共交通ワークショップ 開催レポート



開催概要

少子高齢化や運転手不足などを背景に、本市でも公共交通を取り巻く環境が大きく変化していることから、持続可能な公共交通のあり方について検討が求められています。

こうした状況に対応するため、市では「立川市地域公共交通計画」の策定を進めています。計画策定にあたり、市民アンケートをはじめとする調査の一環として、日常の生活や移動の実情や課題について、地域の皆さんならではの視点で考えていただくことを目的に、「立川市公共交通ワークショップ」を開催しました。

本ワークショップでいただいたご意見も参考に「立川市地域公共交通計画」の策定を進めてまいります。

■本レポートは市ホームページにも掲載しています。



▲QRコードはこちら

【開催日・参加人数等】

地域	対象エリア	開催日	会場	参加人数 (第1回)	参加人数 (第2回)
A	一番町・西砂町	①1月19日(日)	西砂学習館	9	10
		②3月15日(土)			
B	上砂町・砂川町・柏町・泉町	①1月12日(日)	立川市役所	8	9
		②3月23日(日)			
C	若葉町・幸町・栄町	①1月12日(日)	幸学習館	15	13
		②3月9日(日)			
D	富士見町・柴崎町・緑町	①2月8日(土)	柴崎学習館	8	9
		②3月9日(日)			
E	錦町・羽衣町・曙町・高松町	①2月8日(土)	たましんRISURU ホール	19	19
		②3月15日(土)			





第1回まとめ

第1回ワークショップでは、地域の生活・移動の現状や10年後の地域の課題について、以下のテーマで話し合っていただきました。

テーマ
1

公共交通を取り巻く状況や
地域の移動の現状・課題について共通認識を持ちましょう

担い手不足など公共交通を取り巻く厳しい現状や、市民アンケート調査の結果などを踏まえた上で、地域の皆さんだからこそ把握している地域の実情(日常生活の中でどこへどのように移動しているか等)や課題について話し合いました。

テーマ
2

将来(10年後)の地域の姿を想像して、生活・移動における課題を考えてみましょう

テーマ1での話し合いを踏まえて、将来(10年後)のご自身やご家族、ご近所の方々の生活を想像し、地域での生活・移動においてどんなことが課題になっているか話し合いました。

ワークショップ
市政アドバイザー

稻垣先生からの講評 (第1回)



東京都市大学 建築都市デザイン
学部 都市工学科 准教授
稻垣 具志先生
(立川市地域公共交通活性化協
議会副会長)

公共交通は日常生活の必要を満たすための”手段”であって、公共交通に乗ること自体を”目的”とすることはあまり多くはありません。生活の目的を達成するための活動内容と場所のイメージを踏まえて、そのために求められる移動と、担うべき交通手段を考えいただきました。さまざまな世代や立場の方の多面的な意見を共有することで、実態に即した地域特有の課題について皆さんの認識を合わせることができたと感じています。





A 地域まとめ（第1回）



（一番町・西砂町）



テーマ
1

公共交通を取り巻く状況や
地域の移動の現状・課題について共通認識を持ちましょう

ご意見（抜粋）

- 西砂町では、日常の移動手段として自動車での移動が多く、高齢者でも自動車で移動している。
- 連絡所ではできない手続き等のため市役所等に行く際には不便。
- 日常的な買い物は西武立川駅周辺（ヤオコー）、昭島駅周辺（モリタウン）が多い（一番町地域は武蔵村山方面も）。
- 地域内に公共施設は充実しているが、公共交通でのアクセスが課題。
- 路線バスが減便している一方で、くるりんバスは再編により増便（30分に1便）し、利便性が向上している。

テーマ
2

将来（10年後）の地域の姿を想像して、生活・移動における課題を考えてみましょう

ご意見（抜粋）

- 子育て世代の転入増、移動に課題を持つ高齢者が増加することで、移動困難者への対応が必要。
- 運転手不足や昼間人口の減少などを背景に、路線バスの更なる減便などが懸念される。
- くるりんバスでの昭島駅、西武立川駅へのアクセス維持が重要（近隣市との連携が必要）。
- GLP昭島ができることによる交通状況の変化（渋滞や交通安全など）も踏まえて、地域の交通を考えていく必要がある。
- コミュニティ活動を活性化させるため、公共施設へのアクセス性を向上させる必要がある。

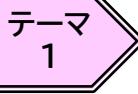




B 地域まとめ（第1回）



（上砂町・砂川町・柏町・泉町）



公共交通を取り巻く状況や
地域の移動の現状・課題について共通認識を持ちましょう

ご意見（抜粋）

- バス停まで距離がある地域では、移動手段を持たない高齢者がある（近所の方に送迎してもらっている人もいる）。
- 砂川町では日常生活で自動車や自転車が必要不可欠である。
- 砂川町にはスーパーがないため、日常的な買い物は柏町や上砂町や武藏村山市まで自動車や自転車で行っている。東西方向の公共交通が乏しいため、移動手段を持たない高齢者は買い物に不便を感じている。
- 泉町には日常的な買い物をするスーパーがなく、立川駅まで出でいく必要がある（バスがライフルイン）。



将来（10年後）の地域の姿を想像して、生活・移動における課題を考えてみましょう

ご意見（抜粋）

- 高齢化や免許返納などで、移動手段を持たない高齢者が増える。日常生活の移動手段（買い物、通院等）や外出促進の観点から、交通手段の確保が必要。
- 運転手不足で路線バスの減便が進む中、本当に必要な交通手段を精査する必要がある。
- 運転手不足解消のため自動運転などの技術革新に期待。
- 地域ごとの生活拠点を設ける必要性（地域の魅力向上、新たなコミュニティ形成）。
- 子育て世代の視点も必要。子育て世代が気兼ねなく利用できる交通手段があるといい（子育てサロンへのアクセス）。





C 地域まとめ（第1回）



（若葉町・幸町・栄町）



テーマ
1

公共交通を取り巻く状況や
地域の移動の現状・課題について共通認識を持ちましょう

ご意見（抜粋）

- 東西方向の公共交通がないため、若葉町方面から公共交通で市役所や泉市民体育館に行く際は立川駅を経由する必要がある。
- 高齢者が、運転に不安を持ちつつも自転車や自動車で移動しているケースや、ご近所で乗り合って自家用者で移動しているケースもあるが、免許返納後の移動手段に不安を抱えている。
- 立川駅方面が混雑していることから、国立駅方面のバスを利用することもある（若年層はシェアサイクルも利用）。
- 地域内にスーパー（オーケーストア、ヤオコーetc）や病院・クリニックなどの施設は整っている。

テーマ
2

将来（10年後）の地域の姿を想像して、生活・移動
における課題を考えてみましょう

ご意見（抜粋）

- 運転手不足により、路線バスのさらなる減便が予想される（自動運転などの技術革新に期待）。
- 自転車や自動車で移動ができなくなった場合の、高齢者の日常生活における移動手段の確保が必要。
- 地域の支え合いでできている移動が、自身も高齢化することで維持できなくなる懸念がある。
- 生産年齢人口を維持していくためにもバス路線の維持は必要。
- 市役所に行かなくて済むような環境づくり。（地域内で行政手続きが完結できるといい。）





D 地域まとめ（第1回）

（富士見町・柴崎町・緑町）



テーマ
1

公共交通を取り巻く状況や
地域の移動の現状・課題について共通認識を持ちましょう

ご意見（抜粋）

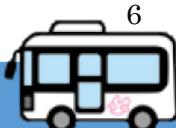
- 崖線下（富士見町）は路線バスの運行本数が多いが、崖線上はここ数年で路線バスの減便が急激に進んでいる（奥多摩街道）。
- 富士見町では地域拠点として滝ノ上会館をよく利用している（公共交通のアクセスがよくない）。
- 富士見町4丁目周辺で移動手段を持たない高齢者は、ネットスーパーを利用している人もいる（外出が減っている）。
- 富士見町では、崖線下は団地周辺にスーパーなどが立地しているが、崖線上（富士見町4丁目、5丁目周辺）にはスーパーがない。
- 地域の医療機関が少なく、立川駅周辺に集中している。

テーマ
2

将来（10年後）の地域の姿を想像して、生活・移動における課題を考えてみましょう

ご意見（抜粋）

- 運転手不足により一部バス路線の維持が困難になる。
- 路線バスの減便が進む富士見町の崖線上では、ネットスーパーの利用が増える（外出機会の減少）。
- 高齢者が増えることにより、免許返納後の買い物や通院が課題。
- 手続きのために市役所に行かなくてもよい環境になっていることに期待（行政手続きのデジタル化）。
- 地域の交流の場があるとよい。地域内で協力しあえる環境づくり。





E 地域まとめ（第1回）

（錦町・羽衣町・曙町・高松町）



テーマ
1

公共交通を取り巻く状況や
地域の移動の現状・課題について共通認識を持ちましょう

ご意見（抜粋）

- 京王バス(立65・66系統)の大幅減便により、立川駅北口への買い物・通院等での移動が不便になった(立川通り周辺住民)。
- バス停まで歩いていけない人はタクシーを利用している(錦町では通院でのタクシー利用が多い)。
- 錦町(坂下)ではくるりんバスが唯一の公共交通手段で沿線住民にとっては利便性が高い。
- 曙町では立川駅まで徒歩や自転車で移動している。
- 錦町では京王バスが減便し移動手段がなくなったことで、日常の買い物はネットスーパーを利用している人もいる(本当は商品を見て買いたい)。

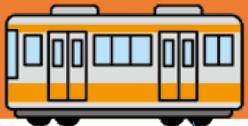
テーマ
2

将来（10年後）の地域の姿を想像して、生活・移動における課題を考えてみましょう

ご意見（抜粋）

- 今後、バス停まで歩けなくなるような高齢者が増えてくる。そういう高齢者の日常の移動手段の確保が必要。
- 路線バスの減便などの状況を踏まえてくるりんバス再編(ルート変更)が必要。
- 隣接自治体と連携した移動手段の維持・確保が必要(生活は立川市内では完結しない)。
- 通勤、通学などの主要な移動は路線バス、地域内の移動はデマンド交通、などの公共交通のすみ分けが必要(地域ごとに完結する小さな交通システム)。
- 技術革新によりきめ細やかな交通サービスが可能になるのは。





第2回まとめ

第2回ワークショップでは、地域の生活と移動を支える公共交通について考えていただくため、以下のテーマで話し合いました。

テーマ
1

公共交通に求めること・役割を考えてみましょう
～「幹」の交通と「枝葉」の交通～

第1回ワークショップの振り返りを踏まえて、以下の内容について話し合いました。

- ・〈地域の「幹」の交通を考えよう〉…路線バス等を取り巻く将来の状況を踏まえて、地域内の「幹」の役割として担うべき公共交通について
- ・〈地域の「枝葉」の交通を考えよう〉…既存の公共交通(路線バス等)ではこのままではカバーできないが、確保すべき「枝葉」の移動(目的や頻度など)について

テーマ
2

公共交通を維持するために
地域でできることを考えてみましょう

テーマ1での話し合いを踏まえて、限られた資源の中で地域内の移動手段を確保・維持していくために、地域の皆さんで取り組めうことや活用できそうな輸送資源や担い手になれる人、利用促進などのアイデアについて話し合いました。

ワークショップ
市政アドバイザー



東京都市大学 建築都市デザイン学部 都市工学科 准教授
稻垣 具志先生
(立川市地域公共交通活性化協議会副会長)

稻垣先生からの講評 (第2回)

住民のつながりや信頼のような、目に見えない地域社会の相互関係を意味する「ソーシャル・キャピタル」という言葉があります。地域コミュニティとの結びつきが強い人ほど交通施策に対する理解が深く、新しい交通システムと自身の生活スタイルがなじみやすくなると言われています。このワークショップでは「ソーシャル・キャピタルを育む」という視点でも、参加された皆さんのポテンシャルの高さを感じることができました。今後も地域のキーパーソンである皆さんと一緒に、地域公共交通を創っていくことを楽しみにしています。





A 地域まとめ（第2回）



（一番町・西砂町）



テーマ
1

公共交通に求めること・役割を考えてみましょう
～「幹」の交通と「枝葉」の交通～

■幹

ご意見（抜粋）

- ・鉄道および西武立川駅や昭島駅へのバスがこの地域にとって「幹」である。
- ・高齢者にとっては松中団地から立川駅までのバスも重要である。

■枝葉

- ・高齢者の買い物（週2～3回。主に西武立川駅や昭島駅）。
- ・公共施設（学習館、会館など（週2回））へのアクセス。
- ・通院目的（頻度（月1回～毎日）や通院先は人によって異なる）の移動。
- ・通勤（平日）

テーマ
2

公共交通を維持するために
地域でできることを考えてみましょう

ご意見（抜粋）

■担い手

- ・福祉関係施設（デイサービス等）の車両の有効活用
- ・退職後の高齢者や若者の引きこもり対策としての社会参加など。
- ・自衛隊退職者の再雇用で運転手不足を解消できるのでは。
- ・自治会などの既存の地域団体が枝葉の交通を担う組織のきっかけとなるとよい。
- ・安全性を確保するための仕組みが必要。

■利用促進

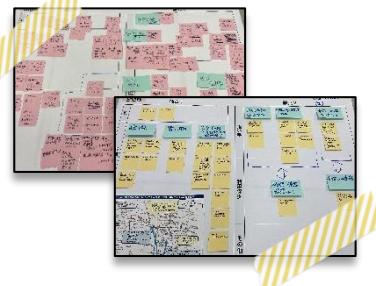
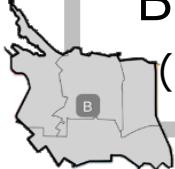
- ・補助金、広報・制度説明等の観点で市と連携。
- ・紙媒体（広報誌等）や自治連で運営しているHPでの情報発信。
- ・スーパー等の事業者と連携して公共交通利用者へのポイント付与。





B 地域まとめ（第2回）

（上砂町・砂川町・柏町・泉町）



テーマ
1

公共交通に求めること・役割を考えてみましょう
～「幹」の交通と「枝葉」の交通～

ご意見（抜粋）

■幹

- ・玉川上水駅と立川駅間の移動（モノレール）、立川駅から武蔵村山市へ向かうバス路線

■枝葉

- ・東西方向の移動が「枝葉」の交通で確保できるとよい。
- ・買い物（週2～3回。実物を見て買いたい）目的の移動。
- ・公共施設（福祉会館（週2～3回）、学習館、市役所など）への移動
- ・通院（買い物のついでに週2回程度）

テーマ
2

公共交通を維持するために
地域でできることを考えてみましょう

ご意見（抜粋）

■担い手

- ・地域と行政の対話が重要。
- ・商業施設や福祉施設、病院などの送迎用車両等の活用。
- ・自治会や青少年健全育成委員会などの既存の団体を活用できるとよい。さまざまな立場の関係者が参加した地域団体。
- ・地域の中に入材はいるが、自家用車や普通免許で送迎が出来るような仕組みづくりが必要。ボランティア保険などの部分で行政との連携が必要。

■利用促進

- ・初回利用無料などの体験乗車により便利さを体感してもらう。
- ・既存の広報媒体を活用した情報発信。利用者による口コミなどの情報拡散。





C 地域まとめ（第2回）



（若葉町・幸町・栄町）



テーマ
1

公共交通に求めること・役割を考えてみましょう
～「幹」の交通と「枝葉」の交通～

ご意見（抜粋）

■幹

・立川駅行きや国立駅行きのバスは、この地域の「幹」の交通。

■枝葉

・「枝葉」の交通として若葉町から公共交通で東西の移動ができるとよい。
・高齢者の買い物(週1回)や通院(週1～月1回)、若葉会館(月1回～2回)や市役所(月1回～3回)などの公共施設への移動。
・通勤通学(週5回)

テーマ
2

公共交通を維持するために
地域でできることを考えてみましょう

ご意見（抜粋）

■担い手

・地域と行政の情報共有や意見交換の場が必要。
・商業施設や福祉施設、病院などの送迎用車両等の活用。
・住民の意見を取りまとめるための団体を地域で立ち上げるのがよいのではないか。
・行政には二種免許がなくても市民が主体となって安心して運行できる仕組みづくり、車両確保や関係団体との調整などをしてもらいたい。

■利用促進

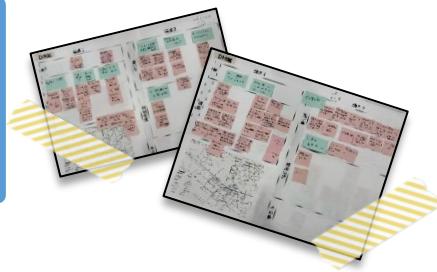
・自治会や若葉会館等を活用した情報発信。
・利用者の口コミの見える化。
・シルバーパス利用者が使いやすくなるような施策。





D 地域まとめ（第2回）

（富士見町・柴崎町・緑町）



テーマ
1

公共交通に求めること・役割を考えてみましょう
～「幹」の交通と「枝葉」の交通～

ご意見（抜粋）

■幹

- ・立川駅～新奥多摩街道を走る路線バスが幹。

■枝葉

- ・滝ノ上会館(週1回～月3回)での住民の交流(カラオケ等)
- ・崖線上(富士見町)の路線バス減便が進んでいる地域における買い物などの日常生活での立川駅への移動。
- ・通院(週1～月1回)

テーマ
2

公共交通を維持するために
地域でできることを考えてみましょう

ご意見（抜粋）

■担い手

- ・福祉事業所等の車両やドライバー確保の可能性。
- ・NPO 法人や隙間時間での市民ボランティアの確保。
- ・担い手も利用者も安心できる仕組みづくり。
- ・既存の宅配サービス(コンビニやスーパー)の周知。
- ・買い物や医療などの日常生活における機能を集約した地域拠点の整備とそこまでの交通手段。

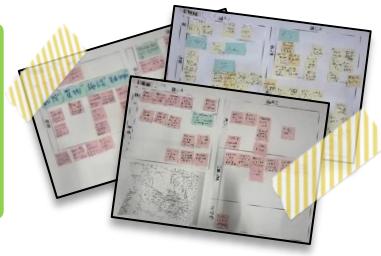
■利用促進

- ・町会の掲示板や回覧板を活用した地域内での情報発信。
- ・利用者の口コミ。





E 地域まとめ（第2回） (錦町・羽衣町・曙町・高松町)



テーマ
1

公共交通に求めること・役割を考えてみましょう
～「幹」の交通と「枝葉」の交通～

ご意見（抜粋）

■幹

- ・立川駅から国立駅への東西のバス路線が幹。くるりんバス錦ルートが錦町エリアにとっては重要な移動手段となっているため、主要な施設を通るなどして「幹」としての機能を強化していくべき。
- ・高松町に居住する住民にとっては、モノレールが「幹」であると考える。

■枝葉

- ・通院(週1回～2回)や買い物(ショッピング)(週2回)目的の移動、学習館等の公共施設への移動。

テーマ
2

公共交通を維持するために
地域でできることを考えてみましょう

ご意見（抜粋）

■担い手

- ・地域での担い手確保のためには資金・安全・責任面での保障等が必要。
- ・住民組織などの立ち上げにおいては市のサポートや呼びかけが必要。
- ・地域に根差した方がリーダーとなって運行を担ってもらえるとよい。
- ・福祉施設の送迎バスを活用して、複数の福祉施設を回るような手段があるとよいのではないか。
- ・運行ルート等を住民と市で話し合う場があるとよい。

■利用促進

- ・広報誌や回覧板などによる情報発信。
- ・地域内の公共施設やイベントを通じた周知。

